

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 則松 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、数学）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学）

教科に関する調査（国語、数学）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問調査

生徒質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

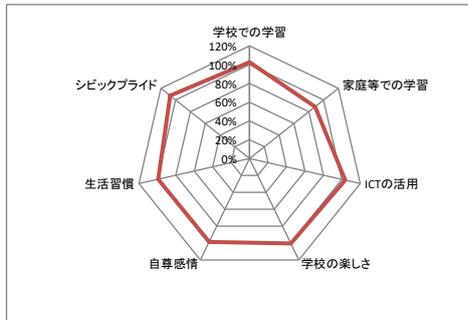
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学）の結果

本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	57	7.8	49
全国	8.7	58	8.4	53

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	15問中10問が平均正答率が全国平均を上回り、特に短答式や記述式での正答率が高かった。その一方、文章中の説明や意図から適切なものを選択する問題において、正答率が低い問題が多かった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	本文中の情報と情報との関係を説明したものとして適切なものを選択する問題	
	努力が必要な問題	話合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	16問中12問が全国平均を上回り、問題形式に関わらず正答率が高かった。その一方、関数を用いて問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうか記述で回答する問題において正答率が低かった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・「友達関係に満足しているか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」との問いに対して約90%の児童生徒が肯定的に回答している。 ・「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」という問いに対して肯定的な回答が全国結果と比べて低かった。今後も学校全体で生徒が主体的・対話的で深い学びに関する授業改善を進め、生徒が「わかった」「おもしろい」と思える授業にすることが必要である。 ・「家庭学習において平日、土日ともに1時間以上勉強している」と回答した割合が低かった。今後は、予習復習の指導や個に応じた課題（ドリルアプリ等）の活用ができるように啓発していく。 	

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・学力調査では、国語科、数学科ともに昨年度と同様に本校の正答率が全国平均を上回ったが、文章の意図や内容を理解し説明や回答する問題に課題があることがわかった。授業では個に応じた学習の場面や、自分の考えや意見を表現する文章の場面を設定し、ブラッシュアップし合う協働的な学びができる学習環境づくりを進める必要がある。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・予習復習の意義など、学校から指示された課題とは別に、自分に必要な学習を進める大切な時間であるということを、学校と家庭が共通認識し、自ら学ぶ習慣が定着するよう啓発する。
 ・個別最適な学習が効率的にできるドリルアプリの活用を積極的に推進する。